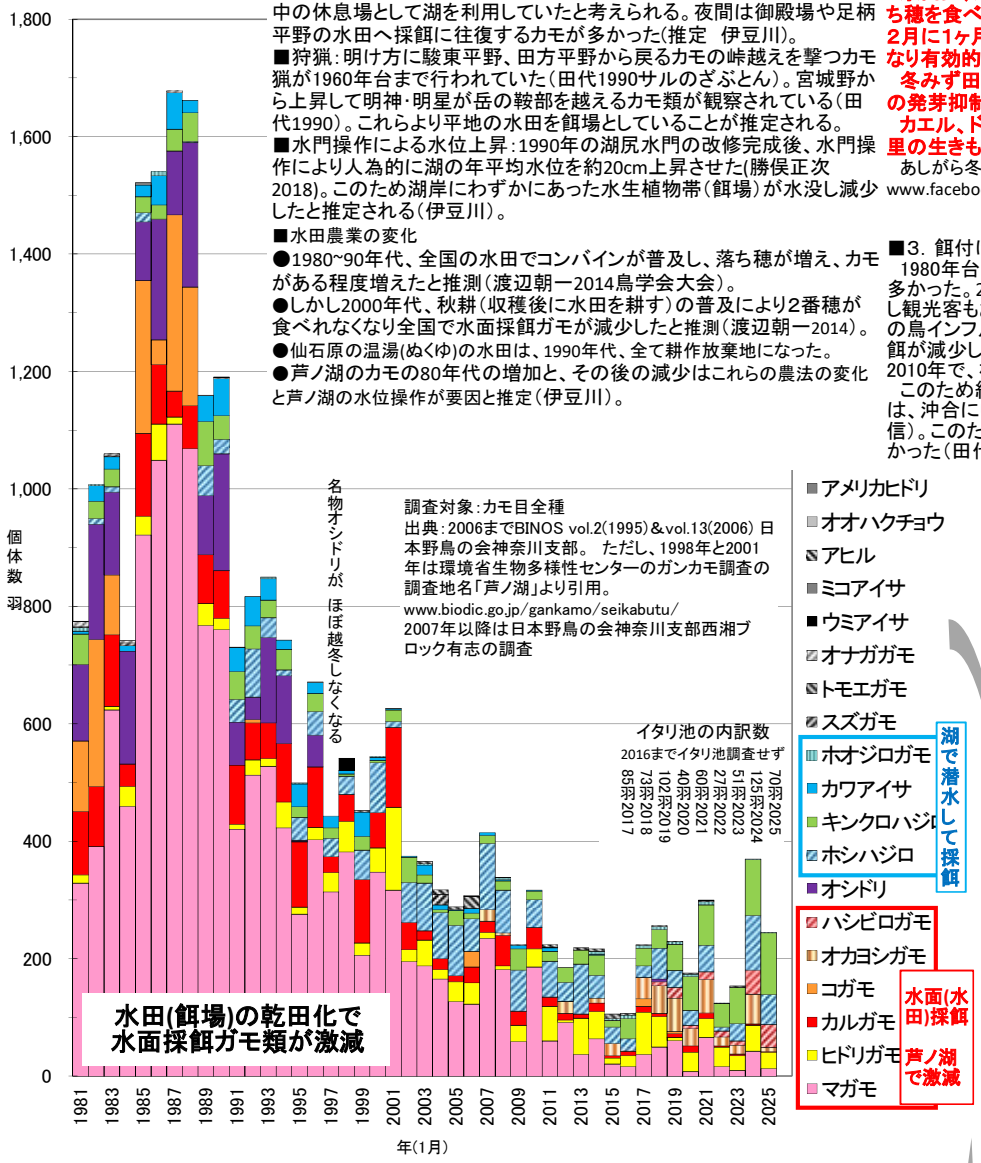
芦ノ湖・イタリ池の水鳥。カモ激減、水辺再生や冬みず田んぼで復活を

伊豆川哲也2025

カモ科



考察

■1..水面（水田）採餌ガモの餌場

芦ノ湖は湾があるが、浅場や砂浜が狭いため、餌場となる水生植物帯も少ない。このことから水面採餌ガモは、湖では餌不足のため、主に日中の休息場として湖を利用していたと考えられる。夜間は御殿場や足柄平野の水田へ採餌に往復するカモが多かった(推定　伊豆川)。

■狩猟：明け方に駿東平野、田方平野から戻るカモの峠越えを撃つカモ猟が1960年台まで行われていた（田代1990サルのざぶとん）。宮城野から上昇して明神・明星が岳の鞍部を越えるカモ類が観察されている（田代1990）。これらより平地の水田を餌場としていることが推定される。

■水門操作による水位上昇：1990年の湖尻水門の改修完成後、水門操作により人為的に湖の年平均水位を約20cm上昇させた(勝俣正次2018)。このため湖岸にわずかにあった水生植物帯（餌場）が水没し減少したと推定される（伊豆川）。

■水田農業の変化

●1980~90年代、全国の水田でコンバインが普及し、落ち穂が増え、カモがある程度増えたと推測（渡辺朝一2014鳥学会大会）。

●しかし2000年代、秋耕（収穫後に水田を耕す）の普及により2番穂が食べれなくなり全国で水面採餌ガモが減少したと推測（渡辺朝一2014）。

●仙石原の温湯(ぬくゆ)の水田は、1990年代、全て耕作放棄地になった。

●芦ノ湖のカモの80年代の増加と、その後の減少はこれらの農法の変化と芦ノ湖の水位操作が要因と推定（伊豆川）。

■2. 対策

水面採餌カモも共生できる浅い水辺環境再生を！

①冬みず田んぼ（冬期湛水田）

水田に、水面が見えると、カモが夜に着水し、二番穂や落ち穂を食べます。このため草が枯れ餌条件が厳しい12～2月に1ヶ月だけでも冬みず田んぼを行うと採餌場提供になり有効的。

冬みず田んぼは、農法としても、トロトロ層が増えて雑草の発芽抑制や有機肥料効果があります。

カエル、ドジョウ、ホタル、トンボ、タイコウチなど懐かしい里の生きものの越冬地にもなります。

あしがら冬みず田んぼの会
www.facebook.com/fuyumizutanbonokai

■3. 餌付け依存カモ類は少ない

1980年台のバブル経済当時、観光客も多く、餌をまく人も多かった。2007年頃までは遊覧船職員や飲食店等が給餌し観光客もお菓子をあげていた。しかし2008頃から、他地域の鳥インフルエンザのニュースにより箱根港・湖尻等でも給餌が減少した。給餌減少により港に集まるカモは2008～2010年で、相当減った（箱根港鈴木ボート談）。

このため給餌当時、カモが港にもいた。しかし多くのカモは、沖合にいたので給餌依存ではなかった（田代道彌私信）。このため芦ノ湖のカモ数に給餌はあまり影響していなかった（田代道彌私信）。

■4.オシドリ減少

昭和12年頃1万羽のオシドリがいたとされる芦ノ湖であるが、釣り船と通年定期運行している遊覧船は、警戒心の強いオシドリの減少要因と推定される（田代道彌1990）。

オシドリは堅果食なので、長期的には戦後の拡大造林による植林やゴルフ場開発によるブナ科木本の減少も、オシドリ減少の要因であろう。

さらにその後、湖岸や湖面での人の出入りの少ない丹沢湖（三保ダム）が完成し、オシドリが移動し、さらにその後、宮が瀬ダムが完成し生息地を移動したと考えられる（田代道彌）。

■5.ワカサギの減少。魚種の変化

ワカサギがものすごく減り、多くの漁協組合員がワカサギ漁を止めた（鈴木ボート談2010、大場ボート談2012）。2021年時点でワカサギ漁師は4人まで減少。

ブラックバスや雑食・水生植物食のコイは増えたのも原因ではないか(大場征男2012)。

■6.肉食性水鳥、潜水ガモ

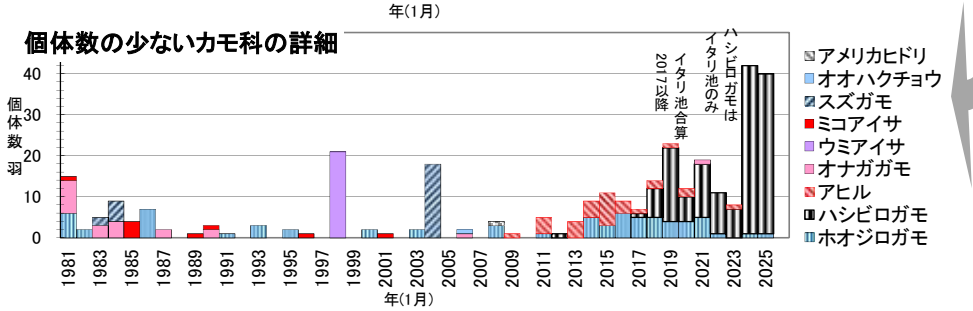
芦ノ湖は湖岸の水性植物帯が殆ど無いため、カイツブリ類やアイサ類の魚食性水鳥やキンクロハジロ、ホシハジロ等の潜水して底生動物（貝やエビ）を食べる鳥がいる環境である。

キンクロハジロが2016年以降増加中。

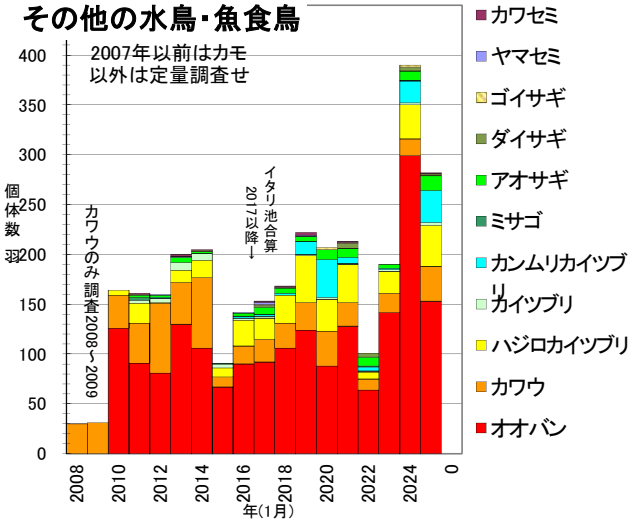
■根拠データ収集中。給餌情報、遊漁者数、漁獲高、湖岸植生等の経年変化との比較等。伊豆川

izkw_tetsuya@yahoo.co.jp

個体数の少ない カモ科の詳細



その他の水鳥・魚食鳥



その他の水鳥・魚食鳥

■カワウ

1990年頃までカワウは芦ノ湖では見かけることはほとんど無かったと言われる。また2010年頃からカワウが増加し、漁業被害が起きていると言われる。増加する前のカウント調査が行われていないので、客観的な増加データはない。カウントを開始した2008年以降は30～60羽程度だったが2014年頃、西岸の百貫の鼻ねぐらをビニル紐張り法にて追い出し成功し、生息数減少、小規模ねぐらのみとなった（大場征男）。2021年頃から冬ねぐらは消失し、春のみねぐら形成。春の水温上昇で浅瀬にワカサギ、ニシジスが寄るため捕食しやすくなる(ワカサギ漁師　大場智也2022)。

■オオバン

オオバンは2006年頃から見かけるようになり、急に増えた(大場征男私信2013)。水草の茎を切って根を食べるので湖岸の水生植物が減り、小魚の生息場を壊して困る（大場征男）。2010～2012年頃は、オオバンの大半は箱根港と元箱根港で越冬。その後湖全域に分散し(伊豆川私信)。近年は主要水鳥だが、2009年以前の定量調査がない。

■調査対象年

カワウ：2008年以降。オオバン、カイツブリ類：2010年以降。

全水鳥と魚食性鳥類（カワセミ、ヤマセミ、ミサゴ）：2011年以降。

芦ノ湖、イタリ池水鳥結果 2025年R07年

調査2025/01/22(水)芦ノ湖 9～11時半、イタリ池13半～15時半

主催：日本野鳥の会　神奈川支部。分担：西湖ブロック　　天候：晴れ、風力：1　,波：なぎ

調査者:伊豆川哲也、原田育生、秋山♀(ともに野鳥の会神奈川西湖ブロック員）、小川治夫、大場智也ともなり(大場ボート)

					カモ目カモ科								カイツブリ目		ペリカン	コウノトリ目	ツル目	他の水辺の鳥	水辺鳥計	備考
					マガモ	カルガモ	ヒドリガモ	ホシハジロ	キンクロハジロ	オカヨシガモ	他(手計算集計)	カモ目計	ハジロカイツブリ	カンムリカイツブリ	カワウ	アオサギ	オオバン	(手計算集計)		手計算等
		芦ノ湖とイタリ池		合計	13	1	28	51	105	7	40	245	41	32	35	15	153	6	527	
		芦ノ湖		小計	4	1	28	41	97	3	1	175	41	32	34	15	141	5	443	
				雌雄	♂ ♀	性不明	♂ ♀	♂ ♀	♂ ♀	♂ ♀										
No.	地域	湾毎	岸植生環境、餌付	芦ノ湖	2 2	1	14 14	18 23	56 41	3 0	1	175	41	32	34	15	141	5	443	
1	南岸	箱根港～関所跡	西は抽水ガマ、係留ボート。桟橋,コンクリ。関所は岩岸と抽水ヨシ原	船				4 2	4 11			21	8	2	3	1	20	カイツブリ2、陸鳥トビ1	57	手計算
2		塔の鼻～恩賜公園～弁天の鼻	岩岸に落広林。	船				2 1	1			4	3	2					9	
3		元箱根	支所に抽水ヨシ原(大場征男が植栽)。係留ボート。コンクリ護岸。桟橋	船				3 2	5 7			17	5		5	1	26	カワウ新ねぐら支所対岸	54	
4	東岸の南側	箱根神社	岩岸に落広樹林・スギ植	船								0	1			2	1	陸鳥ハクセキレイ1	4	
5		山のホテル～蛭川～庭石	岩岸に落広樹林・スギ植	船					1	1	ホオジロガモ♀1	3			1		6		10	
6	東岸	山の神～箱根園	石積み護岸に芝地。岩岸に落広樹林・スギ植,小ヨシ原	船								0	3	1		2	12	陸鳥セグロセキレイ1	18	
7		和田の角(プリンスホテル)～仏が崎(鼻)	石積み護岸に芝地。落広樹林。昔オシドリ多数	船		1	14 14	1	2 3	1	ヒドリガモは芝で採餌	36	3	1	2	1	10	カイツブリ1,カワセミ1	55	手計算
8		白龍山(神社)～都嶋の鼻(胴切り)	岩岸に落広樹林	船								0	2	1	2		3	陸鳥トビ1	8	
9	東岸の北側	都嶋の鼻(胴切)～九頭龍神社～坊が沢の湾	岩岸に落広樹林。ヨシ原。岩岸に照葉樹林	船					5 3			8	2				5		15	
10		神宮しんご、急斜面つづく	岩岸に照葉樹林	船				2	2 2			6		2	3	2	3		16	
11	北岸	伊豆箱乗り場～桃源台乗り場	桟橋と係留ボート。人工護岸	船	1 1			3 3	5 4			17	1		2		10		30	
12		キャンプ場～湖尻水門	岩岸に落葉樹林、一部照葉樹林	船				5 6	13 3	1		28	2		5	1	17		53	
13		椿の鼻～七里が浜	岩岸に落葉樹林。砂浜にササ原	船				1	8 1			10		5		5	1		21	
14		深良水門～亀ヶ崎	岩岸に照葉樹･落広樹混合林。一部砂浜	船				1 5	4 3			13	1	2	2		6	ダイサギ1	25	手計算
15	西岸の北側	亀ヶ崎～立石湾～小杉の鼻	岩岸に照葉樹･落広樹混合林	船	1 1				5			7	2	7	3		4		23	
16		小杉の鼻～立岩	岩岸に落広樹林	船					1			1		1	1		6		9	
17		立岩～毘沙門湾	湾奥に砂浜で背後にササ原と広葉樹林	船					1 1			2	1		1		3		7	
18		サナダ湾～百貫の鼻	湾奥に砂浜で陸ヨシ2箇所。カワウねぐら消失	船					1			1	1	8	1			陸鳥（ツミ1､トビ3）	11	
19		ムジナの窪（百貫の鼻　～箒ヶ鼻）	岩岸に落広樹林。ヨシ原。岩岸に照葉樹林	船								0	1				5		6	
20	西岸の南側	白浜（箒ヶ鼻～トリカブト岩）	岩岸にヒノキ植。砂利浜。抽水ヨシ原	船					1			1	3		3		2		9	
21		トリカブト岩～三ツ石	岩岸に落広樹林とスギ植	船								0	2				1		3	
				小計	9	0	0	10	8	4	39	70	0	0	1	0	12	1	84	
		イタリ池（箱根CC内）	石垣護岸に芝地と高木植栽、人少し。	陸上	5 4			6 4	4 4	2 2	ハシビロガモ♂18♀21	70			1		12	ダイサギ1	84	凍結なし。手計算
参考		お玉が池　旧道	浅い水生植物の自然護岸	陸上							調査せず	0							0	
参考		精進池　国道		陸上							調査せず								0	
参考		出山～塔ノ沢	オシドリチェック	陸上							調査せず								0	

1．昔の記録対象種はカモ目（カモ類、ガン類、ハクチョウ類）のみだったが、他の水鳥と魚食性鳥類も記録対象種とする。
2．カモ目以外の主な水鳥：カイツブリ目、ペリカン目（ウ類）、コウノトリ目（サギ類）、ツル目（クイナ類）
3．環境省RDB等の対象種（貴重種）は陸鳥も含めて記録に努める。
4．手法「陸」：陸上からの記録は、風が強く、小型船での調査ができ無い場合に、湖岸から徒歩でカウントする場合。

■■■■結果概要■■■■

① 芦ノ湖水位は、湖岸の岩の色判読で、近年の冬相当。

② 芦ノ湖とイタリ池のカモ類は、採餌タイプ別では、水面採餌ガモ類ではマガモとオカヨシガモが前年比で大きく減少。ヒドリガモは例年通り箱根園の芝採餌。

③ 潜水採餌ガモ類ではキンクロハジロが2019年頃からやや増加傾向、ホシハジロは1989年頃から変化無し。
④ オシドリ：芦ノ湖名物だったオシドリは芦ノ湖でもイタリ池でも記録なし。今冬も早川の出山鉄橋下流に群生息情報。

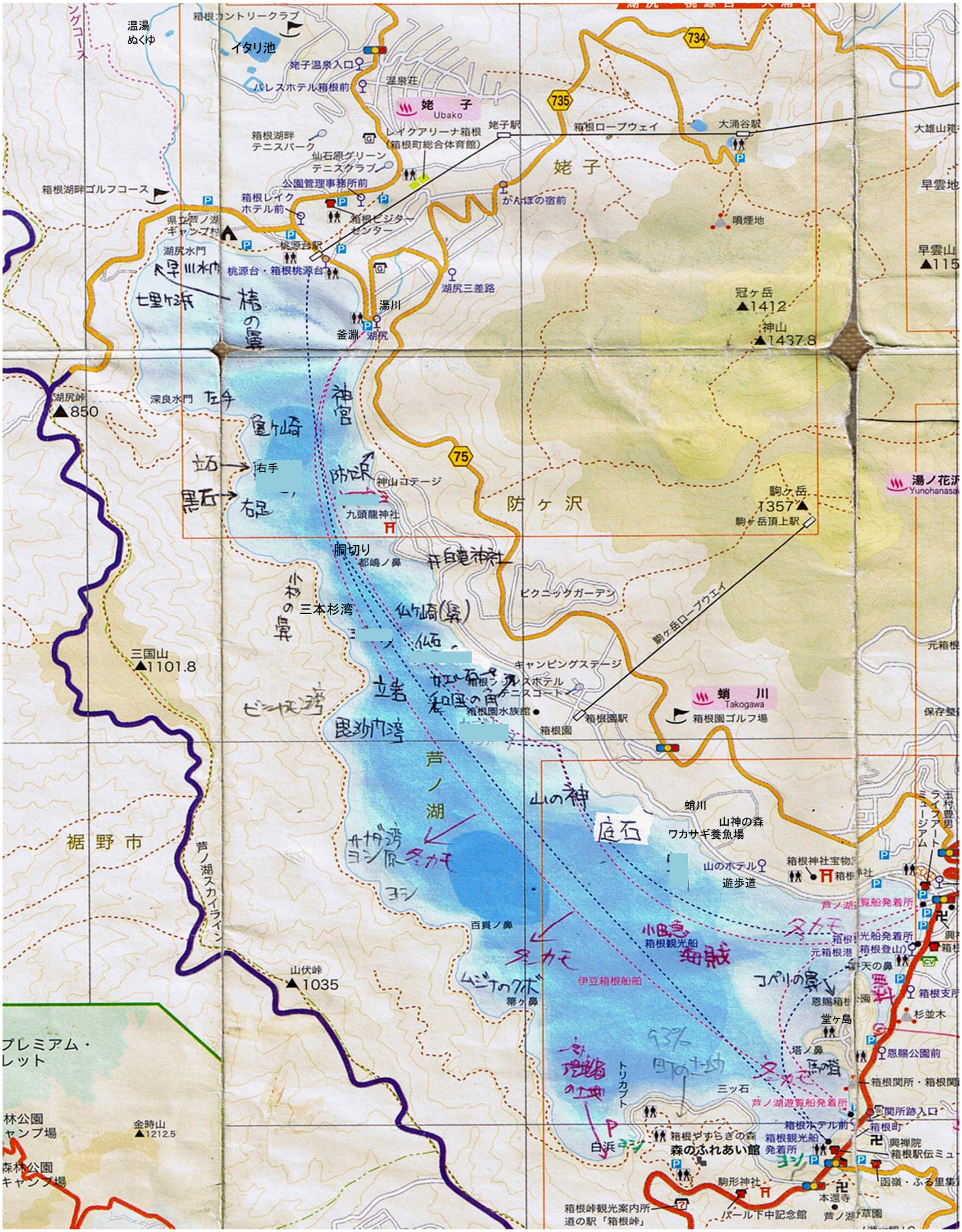
⑤ 餌付けは鳥インフルエンザが流行しはじめた2011年頃まで全遊覧船乗り場で行われていたが、その後は、観光客によるお菓子程度で、定期的な給餌はやってないようである。

⑥ イタリ池では、種は例年通りだった。個体数はカモ類70羽（ハシビロガモ39羽、ホシハジロ10羽等）、オオバン12羽。オカヨシガモが2024年51羽から例年と同等の4羽へ、オオバンが2024年140羽から例年と同等の12羽へ大きく減少しオオバン、カモ類とも個体数は例年並みに戻った。

⑦ カモ以外の水鳥は、個体数、種とも例年並み。オオバンがイタリ池で2024年のみ多かったが、2025年は例年並みに戻った。

■（イタリ池）今回は池周辺の雑木林も観察。

陸鳥　ヤマシギ1(同年2月10日撮影CC鈴木課長),キジバト3、ヒヨドリ20、ジョウビタキ0, ホオジロ2, カシラダカ20,トラツグミ1,ツグミ3,シロハラ1,キジ3,シジュウカラ3,ヤマガラ1,エナガ20,コゲラ1,メジロ1,ビンズイ0,モズ1,トビ1, オオタカ1(同年1月撮影CC鈴木課長),ノスリ1（同年2/9伊豆川）,セグロセキレイ0, ムクドリ32､ハシブトガラス10。


イタリ池
温湯
ぬくゆ
箱根カントリークラブ
姥子温泉入口
パレスホテル箱根前
温泉荘
姥子
Ubako
姥子駅
箱根ロープウェイ
大涌谷駅
箱根湖畔テニスパーク
レイクアリーナ箱根
(箱根町総合体育館)
仙石原グリーンテニスクラブ
公園管理事務所前
箱根湖畔ゴルフコース
箱根レイクホテル前
箱根ビジターセンター
かんぽの宿前
噴煙地
県立芦ノ湖キャンプ村
湖尻水門
桃源台駅
桃源台・箱根桃源台
湖尻三差路
湯川
釜淵
湖尻
冠ケ岳
1412
神山
1437.8
早雲山
115
七里ケ浜
椿の鼻
湖尻峠
850
深良水門
亀ケ崎
神宮
防ヶ沢
右手
右足
黒石
神山コテージ
九頭龍神社
胴切り
都崎ノ鼻
白鬼神社
駒ケ岳
1357
駒ケ岳頂上駅
湯ノ花沢
Yunohanasawa
ピクニックガーデン
駒ケ岳ロープウェイ
小杉の鼻
三本杉湾
仙ケ崎(鼻)
三国山
1101.8
立岩
ビンヤ丸湾
恩賜ケ湾
キャンピングステージ
箱根プリンスホテル
テニスコート
箱根園水族館
箱根園駅
箱根園
蛸川
Takogawa
箱根園ゴルフ場
芦ノ湖
山の神
庭石
蛸川
山神の森
ワカサギ養魚場
山のホテル
遊歩道
裾野市
芦ノ湖スカイライン
百貫ノ鼻
山伏峠
1035
ムジナのクボ
箒ケ鼻
伊豆箱根船舶
小田急箱根観光船
海賊
コバリの鼻
堂ケ島
塔ノ鼻
恩賜公園前
箱根関所・箱根関
三ッ石
トリカブト
白浜
箱根やすらぎの森
森のふれあい館
箱根観光船発着所
箱根ホテル前
関所跡入口
箱根町
興禅院
箱根駅伝ミュ
駒形神社
本遍寺
箱根峠観光案内所
道の駅「箱根峠」
パール下中記念館
芦ノ湖
プレミアム・レット
林公園
キャンプ場
森林公園
キャンプ場
金時山
1212.5
93%
町の土地
タカモ
ヨシ
734
735
75

芦ノ湖、イタリ池（箱根町）の水鳥の経年変化　　日本野鳥の会神奈川支部　ガンカモ一斉調査より

カモ目

↓印刷のため1982～2003年を非表示

		調査地→	芦ノ湖																																									
			1981	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017			2018			2019			2020			2021			2022			2023			2024			2025			
No.	年最大(羽)	種名	S56	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	芦ノ湖	イタリ	計	芦ノ湖	イタリ	計	芦ノ湖	イタリ	計	芦ノ湖	イタリ	計	芦ノ湖	イタリ	計	芦ノ湖	イタリ	計	芦ノ湖	イタリ	計	芦ノ湖	イタリ	計	芦ノ湖	イタリ	計	種名
1	1	オオハクチョウ				1																																						オオハクチョウ
2	246	オシドリ	130																	5		5																						オシドリ
3	1,111	マガモ	329	166	127	123	235	182	59	186	60	92	37	64	21	17	24	13	37	37	13	50	48	13	61		8	8	59	7	66	14	3	17	0	10	10	31	12	43	4	9	13	マガモ
4	141	カルガモ	108	18	10	27	19	52	24	36	16	11	7	15	4	8	10		10	5		5	7		7	11		11	10		10	2		2	3		3	2		2	1		1	カルガモ
5	300	コガモ	120			27												13	13					3	3																			コガモ
6	20	トモエガモ	2	8	5	20																								2	2					2	2							トモエガモ
7	57	オカヨシガモ					20	4				20		8	21		19	17	36		47	47	1	56	57	13	16	29	27	30	57	13	2	15		15	15		51	51	3	4	7	オカヨシガモ
8	141	ヒドリガモ	14	16	34	36	10	6	28	31	59	4	62	46	10	18	43	29	72	49	3	52		5	5	33		33	30	2	32	33		33	25		25	44		44	28		28	ヒドリガモ
9	1	アメリカヒドリ						1																																				アメリカヒドリ
10	8	オナガガモ	8			1																							1		1													オナガガモ
11	41	ハシビロガモ										1						1	1		7	7		18	18		6	6		13	13		10	10		7	7		41	41		39	39	ハシビロガモ
12	113	ホシハジロ		79	86	55	113	73	70	48	61	32	85	39	28	21	15	4	19	50	2	52	25	4	29	20	5	25	40	5	45	5	2	7	21	9	30	84	9	93	41	10	51	ホシハジロ
13	105	キンクロハジロ	52	5	25	10	13	16	36	14	17	25	24	34	11	34	22	8	30	31	1	32	42	3	45	53	5	58	68	1	69	30	10	40	51	10	61	83	12	95	97	8	105	キンクロハジロ
14	18	スズガモ		18																																								スズガモ
15	7	ホオジロガモ	6					3			1			5	3	6	5		5	5		5	4		4	4		4	5		5	1		1				1		1	1		1	ホオジロガモ
16	21	ウミアイサ																																										ウミアイサ
17	63	カワアイサ	5	8	2	8	5	2	6	2	6			2	0																													カワアイサ
18	4	ミコアイサ	1																																									ミコアイサ
19	8	アヒル							1		4		4	4	8	3	1		1	2		2	1		1	2		2							1		1						0	アヒル
20	0	予備																																										予備
	11	種数	11	8	7	10	7	9	7	6	8	7	6	9	8	7	8	7	10	8	6	10	7	7	10	7	5	9	8	7	10	7	5	8	5	6	9	6	5	8	7	5	8	種数
	1,678	個体数	775	318	289	308	415	339	224	317	224	185	219	217	106	107	139	85	224	184	73	257	128	102	230	136	40	176	240	60	300	98	27	125	101	53	154	245	125	370	175	70	245	個体数

その他の水鳥・魚食鳥

No.	年最大(羽)	種名	芦ノ湖														芦ノ湖	イタリ	計	芦ノ湖	イタリ	計	芦ノ湖	イタリ	計	芦ノ湖	イタリ	計	芦ノ湖	イタリ	計	芦ノ湖	イタリ	計	芦ノ湖	イタリ	計	芦ノ湖	イタリ	計	芦ノ湖	イタリ	計	
1	71	カワウ	NR	NR	NR	NR	NR	30	31	33	40	70	42	71	10	18	23		23	24	1	25	27	1	28	30	5	35	23	1	24	10	1	11	18	1	19	16	1	17	34	1	35	カワウ
2	299	オオバン	NR	NR	NR	NR	NR	NR	NR	126	91	81	130	106	67	90	74	18	92	82	24	106	70	54	124	77	11	88	115	13	128	62	2	64	125	17	142	159	140	299	141	12	153	オオバン
3	8	カイツブリ	NR	NR	NR	NR	NR	NR	NR		3	4	8	7	4	2	1	1	2				1		1	2		2	1		1	1		1	2		2	2		2	3		3	カイツブリ
4	47	ハジロカイツブリ	NR	NR	NR	NR	NR	NR	NR	5	20	1	12	17	9	26	21		21	28		28	47		47	32		32	38		38	7		7	22		22	34		34	41		41	ハジロカイツブリ
5	38	カンムリカイツブリ	NR	NR	NR	NR	NR	NR	NR			1				2	2		2	2		2	13		13	38		38	6		6	4		4	1		1	22		22	32		32	カンムリカイツブリ
6	2	ゴイサギ	NR	NR	NR	NR	NR	NR	NR	NR	1			1			1		1						0	2		2	1		1							2		2				ゴイサギ
7	15	アオサギ	NR	NR	NR	NR	NR	NR	NR	NR	2	2	5	2		3	6	1	7	5		5	5		5	10		10	9		9	9		9	3	1	4	9		9	15		15	アオサギ
8	5	ダイサギ	NR	NR	NR	NR	NR	NR	NR	NR								2	2	1		1							5		5	3	1	4				4		4	1	1	2	ダイサギ
9	1	コサギ	NR	NR	NR	NR	NR	NR	NR	NR										1		1																						コサギ
10	3	ミサゴ	NR	NR	NR	NR	NR	NR	NR	NR	3				1																	1		1				1		1				ミサゴ
11	2	ヤマセミ	NR	NR	NR	NR	NR	NR	NR	NR		1	1			1	2		2				1		1																			ヤマセミ
12	3	カワセミ	NR	NR	NR	NR	NR	NR	NR	NR	1		2	1			1		1	1		1	3		3				1		1										1		1	カワセミ
13	1	ウミネコ																																	1		1							ウミネコ
14	0	予備																																										予備
	10	種数									8	7	7	7	5	7	9	4	10	8	2	8	8	2	8	7	2	7	9	2	9	8	3	8	7	3	7	9	2	9	8	3	8	種数
	390	個体数									161	160	200	205	91	142	131	22	153	144	25	169	167	55	222	191	16	207	199	14	213	97	4	101	172	19	191	249	141	390	268	14	282	個体数

全ての水鳥・魚食鳥の合計

	20	種数									16	14	13	16	13	14	17	11	20	16	8	18	15	9	18	14	7	16	17	9	19	15	8	16	12	9	16	15	7	17	15	8	16	種数
	760	個体数									385	345	419	422	197	249	270	107	377	328	98	426	295	157	452	327	56	383	439	74	513	195	31	226	273	72	345	494	266	760	443	84	527	個体数
		出典	BINOS	BINOS	BINOS	BINOS	頼	頼	頼	前田	伊豆川	原田	伊豆川	伊豆川	伊豆川	伊豆川			伊豆川			伊豆川			伊豆川			伊豆川			伊豆川			伊豆川			伊豆川			伊豆川			伊豆川	
		調査者								前田、大関、伊豆川、鈴木ボート	伊豆川、岡根、鈴木ボート	原田、岡根	伊豆川、小野、清水、伊藤、大場ボート	伊豆川、前田、清水、佐藤、大場	伊豆川、原田、竹永、高橋、大場	伊豆川、原田、吉田、小川、川合、大場			伊豆川、原田、清水敏明、大場ボート、鹿野紗耶香、川合英利			伊豆川、大場征男、川合英利、小川治夫			伊豆川、原田、大場智也、川合英利、三瓶雄士郎			伊豆川、原田、高橋、大場智也、川合英利、			ヒドリガモ芦ノ湖30羽は県調査2021-1-13箱根園を引用。	9割面積凍結	伊豆川、原田、山口、大場智也		3割面積凍結	伊豆川、原田、信濃、下園、大場智也		凍結なし	伊豆川、原田、川合、上妻、大場智也	暖冬、積雪無し	凍結なし	伊豆川、原田、川合、浅利、大場智也	寒い冬、積雪無し。日本海側大雪	凍結なし	伊豆川、原田、秋山ゲ、大場智也、小川治夫	

NR:No Reserch調査対象外

出典　BINOS：BINOS vol.2(1995)およびvol.13(2006) 日本野鳥の会神奈川支部

ただし　1998年と2001年　環境省：環境省生物多様性センターのガンカモ調査の調査地名「芦ノ湖」より引用。http://www.biodic.go.jp/gankamo/seikabutu/index.html

2007年以降は日本野鳥の会神奈川支部ガンカモ一斉調査での西湘ブロックの調査記録（未発表）

編集　伊豆川哲也　日本野鳥の会　神奈川支部　西湘ブロックizkw_tetsuya@yahoo.co.jp